

一 教学入門 一【1】法華經

① 万人の成仏の經典

次に記述されている内容に関して、本文のカッコ内に適切な言葉を語群から選んで埋めなさい。

釈尊と法華經

仏教の創始者は（釈尊）である。

釈尊の教えの精髓が「經の王」と讃えられる（法華經）である。

法華經は、釈尊の本意である「万人の（成仏）」を実現する最も根本の教えを説いた經典です。

釈尊の願いは、一切衆生を自分と同じ境涯に高めたい。これを（如我等無異）という。

釈尊の願い

（生老病死）という人間の根本的な苦悩からどうすれば人々を救えるか？

宇宙と生命を貫く根源の法である（妙法）が全ての人の胸中に具わっている。

（一切衆生）が自身の内なる法に目覚めることで、（生老病死）の苦悩を乗り越え、

（絶対）的幸福境涯を確立できる。

法華經流布の歴史

インドでは（竜樹）・天親が法華經の精神を踏まえた優れた論書を作成。その後中国では、（鳩摩羅什）が「妙法蓮華經」として漢訳し広く流布した。

さらに中国の（天台大師）・（妙楽大師）、日本の（伝教大師）が法華經に基づく実践を流布。そして法華經の思想と実践が発展的に継承され、日蓮大聖人の仏法に結実した。

（創価学会・SGI）は、仏法の正統を継承し法華經に依拠して人間主義の根本精神を現代に展開している。

普遍的な法華經

正法時代の法華經は、釈尊の（法華經二十八品）

像法時代の法華經は、天台大師の（摩訶止観）

末法の法華經は、日蓮大聖人の（南無妙法蓮華經）である。

この3つをあわせて（三種の法華經）と呼ぶ。

釈尊	天台大師	妙楽大師	伝教大師	生老病死	相對	絶対	竜樹
法華經二十八品	摩訶止観	南無妙法蓮華經	生老病死	貧困	鳩摩羅什	法華經	
三種の法華經	如我等無異	創価学会・SGI	日顕宗	成仏	一切衆生		

② 法華經のあらすじと構成

次に記述されている内容に関して、本文のカッコ内に適切な言葉を語群から選んで埋めなさい。

【全体】

法華經は8巻（28品）で構成されている。

（天台大師）は、前半14品を（迹門）、後半14品を（本門）に分類した。

説法は説かれた場所と回数から（二処三会）と呼ばれている。

從地涌出品第15から囑累品第22までを説法の場合から（虚空会）を呼び、それ以前と以後の

説法は（靈鷲山）で行なわれた。空中に浮かび上がって行われる（虚空会）の儀式は、

（地涌の菩薩）に（末法）の時代の法華經弘通を託す儀式である。

【迹門】

迹門の中心法理は、方便品第2で説かれた（諸法実相）である。また譬喩品第3から人記品第9で強調されるのが（二乗作仏）である。法華經以外の三乗が悟りを得るための教えは、

法華經で明かされる成仏のための方便であつたと明かされる。これを（開三顯一）と言う。

法師品第10以降で、末法において誰が法華經を弘通するのかというテーマが問いかけられる。まず、

見宝塔品第11で、巨大な（宝塔）が出現し、（多宝如来）が「釈尊の法華經の説法は真実で

ある」と証明する。（六難九易）を説いて末法に法華經を弘通することの困難さを示し、釈尊滅後

の弘通を菩薩たちに勧める。

提婆達多品第12では提婆達多の成仏と竜女の成仏が説かれ、（悪人成仏）と（女人成仏）が

明かされる。

勸持品第13では、悪世で法華經の行者を迫害する（三類の強敵）を乗り越えて弘教することを

菩薩達が誓いますが、從地涌出品第15で釈尊は滅度弘通の眞の主体者として（地涌の菩薩）を

大地の底から召し出します。

【本門】

如來寿量品第16で、始成正覺の立場は仮の教えであり、（久遠実成）と眞実の仏の境地を明らかにする。これを（開近顯遠）と言う。

常不輕菩薩品第20では釈尊自身が過去世で（不輕菩薩）として弘教し成仏したと明かす。

如來神力品第21で、上行菩薩をはじめとする（地涌の菩薩）が釈尊滅度の弘通を誓願し、釈尊

は上行菩薩達に法華經の肝要を付囑し、未來の弘教を託す。

藥王品第23では、後五百歳に閻浮提に法華經を（広宣流布）するよう促される。

続く各品で諸天善神が法華經の行者を守護することを誓い、（当起遠迎、当如敬仏）の言葉で法華

經の説法が締めくくられる。

当起遠迎、当如敬仏	広宣流布	地涌の菩薩	上行菩薩	三類の強敵	三障四魔
宝塔	靈鷲山	本門	迹門	虚空会	二処三会
六難九易	變毒為藥	二乗作仏	末法	正法	像法
二十八品	多宝如来	天台大師	久遠実成	諸法実相	開近顯遠
				不輕菩薩	

③ 諸法実相と久遠実成

次に記述されている内容に関して、本文のカッコ内に適切な言葉を語群から選んで埋めなさい。

万人成仏の原理 諸法実相

法華經迹門の中心的法理は、（諸法実相）と（二乗作仏）である。

諸法とは現実社会で様々な姿で現れるすべての（現象）であり、実相とは究極の（真実）のことである。生命論から見れば、諸法は地獄から仏界までの（十界）の依正であり、実相とは妙法蓮華經の当体である。諸法はすべて（十如是）の姿をとっており、諸法はそのまま（実相）の現れであり、実相から離れて存在しない。

諸法実相抄では『下（地獄）より上（仏）界までの十界の依正の当体・悉く一界ものごとく（妙法蓮華經）のすがたなり』と言われている。

自身と等しい仏の境涯に到達させるという（如我等無異）こそ、仏の根本の願い（出世の本懐）であり、仏法の根本目的である。

この法理によって、十界の衆生はすべて（妙法蓮華經）の当体として平等であるという原理が明確になり、結果的に今まで成仏できないとされてきた（二乗）や（女人）、（悪人）の成仏が明かされた。

永遠の仏 久遠実成

法華經本門の中心的法理は、（如来寿命量品）第16で説かれている（久遠実成）である。

釈尊が今世で初めて成仏したという（始成正覚）の考えを打ち破り、実は（久遠）の昔に成仏して已来この世界に常住してきた（仏）であると明かした。この立場を（久遠実成）という。

久遠実成である釈尊は、仏になった今もなお（菩薩）道を実践していると示す。寿命は永続するが方便として入滅する（方便現涅槃）を説く。入滅しても仏の生命は凡夫の住む娑婆世界に常住しており仏道修行に励むならばいつでも仏の住む世界に変わると説いた。これを（娑婆即寂光）と言う。

この説法の意味は、仏とは、「仏になってからも（十界）の生命を備え、十界すべてを総動員して民衆救済の慈悲の実践を続ける」ことを現しており、（仏）界の生命は常住であり、九界の生命も常住であるがゆえに（十界）互具が成立する。久遠の過去から未来永劫に誰もが仏であるという生命の真実を明かしたのが（久遠実成）の法理である。

十界	地獄	仏	菩薩	仏界	娑婆即寂光	久遠実成	始成正覚	二乗	女人
十如是	妙法蓮華經	現象	真実	成仏	諸法	実相	諸法実相	如来寿命量品	
如我等無異	久遠	方便現涅槃	方便品	二乗作仏	出世の本懐	悪人			

④ 地涌の菩薩

次に記述されている内容に関して、本文のカッコ内に適切な言葉を語群から選んで埋めなさい。

釈尊滅後の法華經弘通のために大地の底から呼び出した無数の菩薩を（地涌の菩薩）という。
この菩薩は（從地涌出品）第15で明かされる。

その数は六万恒河沙であり、それぞれが無数の眷属を率いていた。彼らは成仏のための根源の法をすでに受持している。説法を行っている（釈尊）と同じ境涯を持ちながら、（凡夫）の姿で悪世（末法）の時代に妙法を（広宣流布）していく使命を帯びている。

地涌の菩薩を率いる四人の導師（リーダー）は（上行菩薩）（無辺行菩薩）（浄行菩薩）（安立行菩薩）である。日蓮大聖人は（上行菩薩）にあたる。

諸法実相抄で『いかにも今度・信心をいたして（法華經）の行者にてとをり（日蓮）が一門となりとをし給うべし、（日蓮）と同意ならば（地涌の菩薩）たらんか、地涌の菩薩にさだまりなば（釈尊）久遠の弟子たる事あに疑はんや』とされている。

現代において（日蓮大聖人）の教えを信受し、（広宣流布）に励む私たち一人ひとりこそが（地涌の菩薩）であり、日蓮大聖人の真の弟子である。

從地涌出品	方便品	如来寿量品	釈尊	日蓮大聖人	地涌の菩薩	上行菩薩
無辺行菩薩	浄行菩薩	安立行菩薩	日蓮	法華經	南無妙法蓮華經	広宣流布
末法	像法	正法	凡夫			

⑤ 不輕菩薩

次に記述されている内容に関して、本文のカッコ内に適切な言葉を次頁の語群から選んで埋めなさい。

常不輕品第20で説かれる（不輕菩薩）の実践は、釈尊滅後の悪世において正法を弘通する実践のあり方を示している。

不輕菩薩は（釈尊）の過去世の姿であり、「万人の（生命）には（仏性）が内在しているから、すべての人の生命を（敬う）のだ」と、（二十四文字の法華經）を説いた。

不輕菩薩は、（増上慢）の人達に杖で打ち付けられ、石を投げつけられながらも（礼拝行）を貫き通して（仏）になった。

その内容は『我れは深く汝等を敬い、敢て（輕慢）せず。所以は何ん、汝等は皆な（菩薩）の道を行じて、当に（作仏）することを得べし』である。

悪世（末法）は争いの時代である。争いの時代の変革は、自他の仏性を信じて、（人を敬う）行動を続けるしかない。（人を敬う）という人間として最高の（振る舞い）を説き、万人が同じ実践を貫くよう教えたのが仏教である。

日蓮大聖人は人の振る舞いについて、『一代の肝心は（法華經）・法華經の修行の肝心は不輕品に候なり、（不輕菩薩）の人を敬いしは・いかなる事で、教主（釈尊）の出世の本懐は

（人の振舞）にて候けるぞ、六賢・六賢、（賢き）を人と云いはかなきを（畜）といふ』とされている。

不輕菩薩	釈尊	生命	輕慢	作仏	成仏	正法	像法	末法
仏性	地獄	仏	菩薩	増上慢	権力者	法華經	南無妙法蓮華經	
人の振舞	振る舞い	広宣流布	賢き	愚か	人	畜	礼拝行	敬う
二十四文字の法華經	人を敬う	自己を主張する	他者に勝つ	仏教	不輕品			

※次に書かれた出来事や言葉について、上下で関連の深いものを線で結んで下さい。

